

ことばの教室(言語障がい通級指導教室)について

【言語障がい】

言語障がいとは、発音が不明瞭であったり、話し言葉のリズムがスムーズでなかったりするため、話し言葉によるコミュニケーションが円滑に進まない状況であること、また、そのために本人が引け目を感じてしまうなど社会生活上不都合な状態であることをいいます。

学級ではこんなことに困っています…

- 進んで挑戦したり取り組んでみたいけれど、ことばが伝わらないと思うとなかなかできません。また、言っているつもりなのに、伝わらないという不便さやイライラから自己評価が低くなってしまいます。(吃音、構音など)
- 話し終わるまで待ってくれないことや、真似されたり、からかわれることもあり、人前で話すことが、どんどんいやになります。(吃音、構音、遅れなど)
- ことばを発せないこと(緘黙^{かんもく}など)や、困っていることが伝わりづらいです。(吃音、構音、遅れなど)

【ことばの教室では】

- ☆子どもの実態を把握し、ことばが育つ土台となるコミュニケーションへの意欲を育てながら、一人一人のことばの状態に合わせた指導を行います。
- ☆人と一緒にいるときの安心感や人とかがわかることの楽しさ、話したい気持ち、よく聞こうとする態度などを培います。
- ☆在籍校や家庭などと連携・協力をしながら、よりよい言語環境の整備に向けた取組を行います。

【本人や保護者の方の声から】

- 話すことに対して自信がなくなってきたのか、話す声がどんどん小さくなってきたのが心配です。
- 会話中にタイミング良く言葉がでないため、誤解されることが多いのが将来に向けて心配です。
- 友達との会話中に聞き返されることが多いため、友達との関係でストレスがたまっているのが心配です。
- 人前で話すことに恐怖を感じているようで、学校に行きたがらないときがあります。
- 授業などでみんなの前で発表するときうまく話せなくて泣いてしまうことがあります。
- 発音が不明瞭なのが、まわりからわざとふざけて話していると思われることがあります。
- 自分は他人と違うと思ひこんでふさぎこみがちなことがあります。



まなびの教室(発達障がい通級指導教室)について

【発達障がい】

発達障がいとは、特定の脳の器質的変化をもって生まれたために、ある一定の特性をもちます。今回は、読字障害や書字障害などの特性がある「学習障がい」と、注意の持続に関する困難や多動、衝動傾向が見られる「注意欠陥多動性障がい」を主に取り上げています。

学級ではこんなことに困っています…

- 筆圧が強かったり、弱かったり、升目にそって書くことが苦手だったりして、高学年になっても人が読めるような文字を書けません。
- 身体の動きが「ぎこちなく」なってしまう、走り方が独特であったり、スキップができなかったりするなど、周りのみんなの動きに合わすことができません。
- ついつい言葉よりも手や足を使って相手に思いを伝えようとしてしまい、なかなか行動が変えられず困っています。
- 長い時間、集中することが苦手なため、ふいっと立ち上がり教室内をウロウロと歩いてしまったり、普段仲良しの友達のところまで行って話しかけたりしてしまいます。

【まなびの教室では】

- ☆子どもの興味関心や学習したいという意欲を大切にするとともに、認知特性に応じた指導を行います。
- ☆指導場面の環境を整えて、児童が集中して課題に取り組めるようにしています。
- ☆対人関係や社会性の指導については、グループでの指導を取り入れるなどしています。
- ☆つまずきの背景として考えられる要因を想定して指導方法を工夫します。

【本人や保護者の方の声から】

- 板書をノートに写すのに精一杯で授業がなかなか聞けないことや、書き写す前に先生が黒板を消してしまうこともあるので残念です。
- 時間割や教室が変わるときには、事前に具体的な説明があると安心して動けます。
- 手先が不器用なので、コンパスや分度器の使い方は分かるのですが、使いこなせないことを分かっていたらいいと思います。
- 「分からない、できない。」のではなく、支援があればできることがたくさんあることを知って、応援してほしいです。

